

愛媛大学における大学院生による 学習支援の現状と課題

山 内 一 祥

愛媛大学における大学院生による学習支援の現状と課題

山内 一 祥

(愛媛大学教育学生支援部共通教育チーム)

Current state and problem of the study support by post graduate of Ehime University

Kazuyoshi YAMAUCHI

(Ehime University, Education and Student Support Department / Registrar's Division)

はじめに

近年、大学生の学力低下が深刻な問題として取り上げられている。この問題に関する著書が多く出版され、大学教員の約6割が問題視しているなどの報告もある。

このように大学生の学力低下問題は放置できないレベルに達しており、この問題を解決するための取り組みとして、平成17年度より教育・学生支援機構では大学院生による学部生対象学習支援の取り組みとして「スタディ・ヘルプ・デスク」(以下SHD)を開設している。以下ではこれまでの活動を業務内容、利用状況と課題などについて報告する。

大学院生による学習支援

(1) SHD 設置のねらい

本学の学習支援のねらいは学生の学力の低下の抑止力として多様な学習ニーズに応えることである。現在、学業に付いていけないなどの問題を抱えている学生が多くいるが、このような問題は高等学校と大学の講義スタイルのギャップ、あるいは基礎力の欠如などによって引き起こると考えられる。SHDの目的はそのギャップを埋め、学習面において高等学校から大学への円滑な移行ができるように支援することである。

このような学習支援の取組は関西国際大学などいくつかの大学で行われているが、SHDが他大学と比較して、大きく異なるのは学習支援にあたるアドバイザー(以下スタディ・アドバイザー)を大学院生にしていることである。大学院生をスタディ・アドバイザーにすることで、教員よりも学生の立場に立てるというメリットがある。大学院生は教員よりも学生の目線に近く、大学の先輩として、学習での躓きや悩みなどを共感的に理解し対応することができる。また、悩みを持つ学生の学部、あるいは学科の先輩である可能性もあり、利用者にとって、親しみの持てる相談相手になれるとも考えられる。

学習上の悩みは一過性のものではない場合が多く、問題解決のため継続して利用者に関わっていく必要がある。利用者にとってスタディ・アドバイザーが大学院生であるという事で、親近感が湧き、継続的な関わりの形成をより迅速に行うことができるという点もメリットであると考えられる。

実際に一時期SHDで教員がアドバイザーとして相談に乗っていたが、利用者は明らかに大学院生が待機している時間帯を選んで相談に来ていた。

現在、多くの大学でオフィスアワーなど、教員に学習上の問題を相談する時間が設けられている。本学においてもオフィスアワーを開設しているが、緊張するなどの理由から教員に直接質問に行くことが出来ない学生が多くいることも事実であり、大学院生による学習支援は、教員に直接質問に行けない学

生たちへの窓口になると考えられる。

(2) スタディ・アドバイザーの採用方法

採用に関しては、学生の幅広いニーズに対応できるように全研究科から1名以上採用することを基本的な考え方としている。今年度は、理工学研究科1名[理学部4名(数学2名, 生物1名, 物理1名), 工学部2名(電気電子1名, 応用化学1名)], 法文学研究科1名(総合政策), 計7名の大学院生を採用している。昨年度までは教員推薦で採用を行っていたが, 今年度より学内公募を行っている。採用の際は応募のあった大学院生と面接した上で, 判断している。

(3) SHD 開室時間

利用者は学習支援室の前に掲示されている開室スケジュール表を見て自分のニーズに合致する担当者が在室している時間に自由に訪れることができる。

SHDの開室時間は、設置当初、授業時間の第三時限の開始時刻(12時50分)から第五時限の終了時刻18時までとしていたが、利用状況などのデータから現在では利用の集中する第四時限から第五時限(14時40分から18時00分)までの開室としている。また、一時『ナイト営業』という名称で、一週間に2日20時までの開室も行ったが集客性がそれほど無かったため中止した。

(4) SHD 業務内容

SHDでは大きく分けて以下の4種類の業務を行っている。

1. スタディ・アドバイザーによる学習支援
2. 相談記録の作成・管理
3. スタディ・アドバイザー研修
4. ミーティング

スタディ・アドバイザーによる学習支援では、主に以下の5種類の業務を展開している。

- 学習スタイルコンサルテーション
- 教科学習支援
- 大学への意見の聴取
- 自習スペースの提供
- 学生向けセミナー・イベントの開催(教材作成)

学習スタイルコンサルテーションでは、自主学習の方法について、コンサルテーションを行い学生の学習スタイルに対してアドバイスを行う。図1には

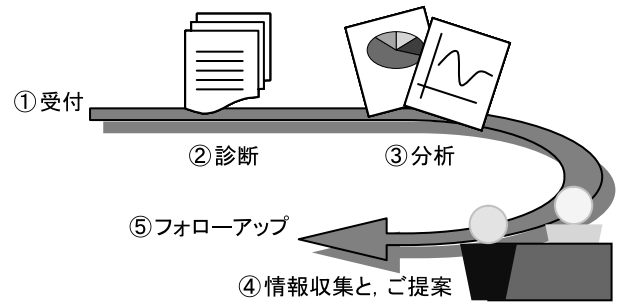


図1 学習コンサルテーションの流れ

コンサルテーションの流れを示す。

教科学習支援では、英語・数学・理科など、各スタディ・アドバイザーがそれぞれ担当の教科の学習支援や、スタディ・スキルの学習支援などを行っている。現在担当科目として設定しているのは、数学・物理・化学・生物・英語・工学・社会学である。

大学への意見の聴取については、現在、授業アンケートやWeb何でも相談窓口(オピニオン・ボックス)などの学生の声を大学に伝えるシステムが存在する。SHDでは相談に訪れた学生との会話を通じて、普段それほど意識していない、つまりあえて大学に伝える程のことでもないと思ってしまうような小さな不満や改善要望など、他では集められない学生の生の声を収集することができる。学生との会話の中で聴くことの出来た意見をSHDと教育・学生支援機構で協力して集約し、学生の声をレポートなどで学内に公開していくことを考えている。

自習スペースの提供というのは開室時間内に限り学習支援室を自習のスペースとして開放するというものである。愛媛大学には研究室に所属していない1, 2回生が学習(自習)のため自由に使用できる場所が少ない。学習に集中でき、いつでもアドバイザーに質問できる場所として学習支援室を提供している。

学生向けセミナー・イベントの開催について現在、数学の分野で学習イベントを企画している。このセミナー・イベントのねらいは学生に自己学習やスタディ・スキルズ, SHDに関心を持ってもらうことである。昼休みなどを利用して30分から50分程度の時間でスタディ・スキルズの習得方法についてのワークショップや教科に関する公開講座などを想定している。また、教材の作成という点で、現在本学総合情報メディアセンターが提供するe-Learningシステムを利用し、スタディ・スキルに

関する学習や、自己分析などの教材を提供している。

相談記録の作成・管理業務は、以下の2種類の業務を行っている。

- 業務日誌の作成
- 相談記録の作成

業務日誌には、どの時間帯に利用者が来たのかということを入力している。また質問内容に関して、科目、講義名、内容などを簡単に記録するようにしている。(巻末資料A)

相談記録には、利用者の学部・学科、具体的な相談内容やそれに対するスタディ・アドバイザーの対応についても記入している。(巻末資料B)

スタディ・アドバイザー研修には、教員による研修と、スタッフ自らが実施している研修がある。まず、教員による研修ではこれまでに以下のテーマで実施している。

- スタディ・アドバイザーの心得
- ピアヘルピングのプロセス
- コミュニケーションスキル向上
- FDスキルアップ講座への参加

次にスタッフ自らが実施している研修は以下のものがある。

- ケース・スタディ
- コミュニケーションスキル向上

研修の目的は、スタディ・アドバイザーの質の向上であり、それは学生との継続的な関わりを実現するために重要なことであると考えられる。

ミーティングでは主に広報戦略や、今後の業務方針について話し合っている。

SHDでは精力的に広報活動を展開しており、これまでに学生に対するものと、教員に対するもの、2種類のアプローチを行っている。まず、学生に対する広報では、学習支援室の前に開室スケジュール表とチラシを設置した。このチラシには個人の紹介(所属と担当科目、30文字程度のメッセージ)を付記しSHDでは何ができるのか、そして場所を明記した。またこのチラシを1、2回生対象の授業にて配付した。

平成18年度からは学内テレビ放送を利用した広報と、立て看板を設置するなどの広報活動を行っている。また今年度からは、ホームページによる広報も行っている。

広報活動とは異なるかもしれないが、学習支援室

の内装にも工夫を施している。まず、入り口から勤務しているスタッフの顔が見えるようにし、参考図書や大学生活を円滑に進めるためのコツをフリーペーパーにしたものを置いてある。

教員に対する広報としては、全教員にパンフレットを配付し、さらに教員研修などの場で広報を実施している。

SHDでの業務は以上の4つを柱として、取り組んでいる。

利用状況と課題

(1) 利用者数の推移

平成17年度のSHD開始から今年度7月末現在までの利用件数について述べる。図2には月別延べ利用者数の推移を示した。

17年度の延べ利用者数は271人であった。

開始した7月は十分な広報を行っていないにも関わらず、試験期間に重なったため学生の相談があった。10月からは広報活動の展開と数学の学習会が自然発生的に起こったことによって相談件数が大きく伸びた。相談内容は数学の質問が多く、質問に来る学生間で学習会が開催されるようになった。これは、SHDの取り組みの理想的な形の一つではないかと考えられる。

平成18年度の延べ利用者数は267人であった。昨年度行われていた数学の学習会がアドバイザーの入れ替わりと同時に消滅したこともあり利用者数に大きな影響を与えることが危惧されたが、個人の利用者が増加したことで昨年度と同等の利用者を集めている。

今年度、前期の利用者数は170人であり、一昨年、昨年と比較しても同等か、それ以上の数値である。

(2) 相談内容別利用者の割合

図3にはこれまでの相談内容別割合を示した。今年度大きく変化した項目は、数学、スタディ・スキル、である。数学の相談割合が高くなった要因は、数学担当のスタッフを増員したことだと考えられる。またスタディ・スキルに関しては、例年行っている新入生セミナーと今年度教育企画室で開催したスタディ・スキル講座(毎週火曜・金曜、全16回)

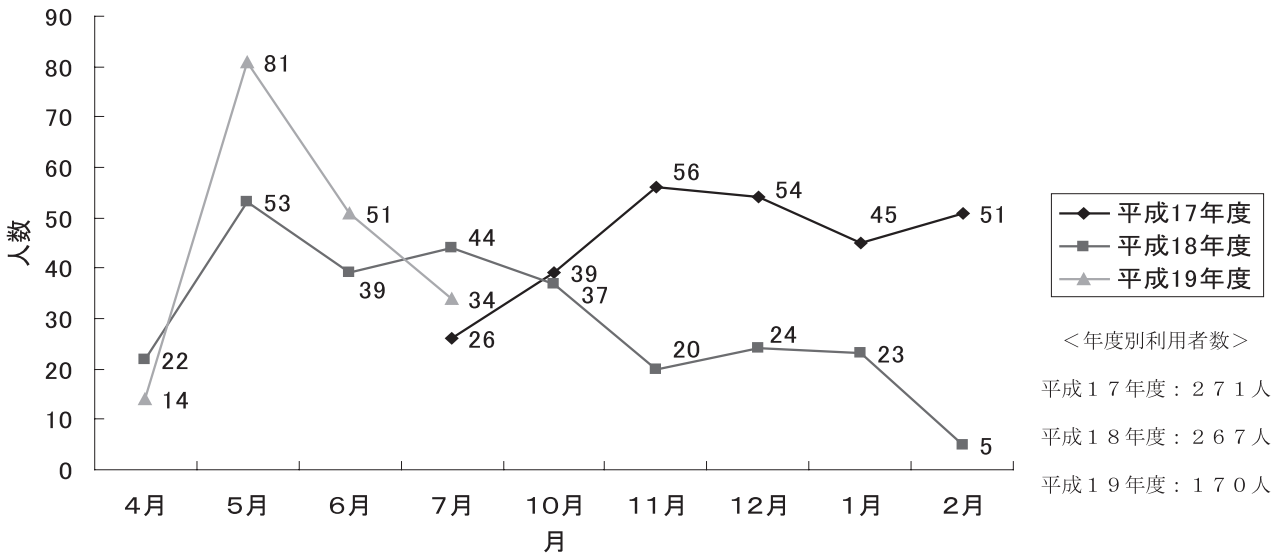


図2 平成17年度～平成19年度 月別延べ利用者数推移

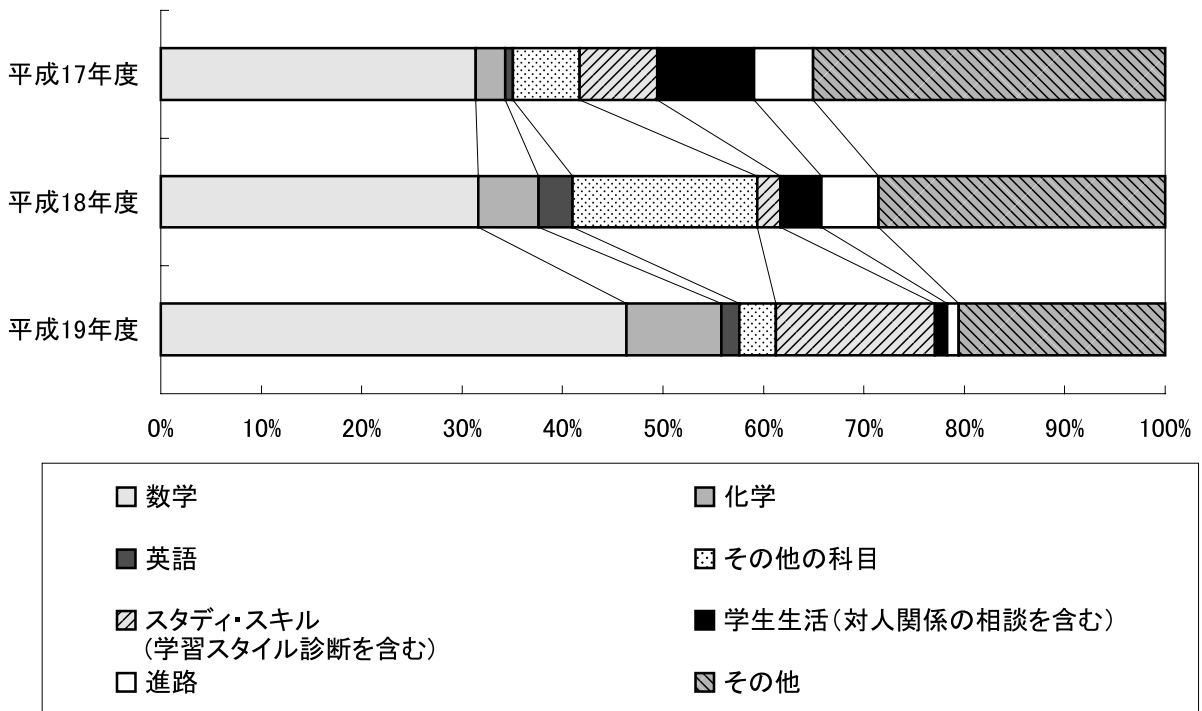


図3 相談内容別割合

により、学生の意識の高まりから相談があったのではないかと推測される。

これら相談内容はSHDの設置目的である、学習スタイルコンサルテーション・教科学習支援と一致しており、目的とSHDに対する学生の認識とのズレが無いことを示している。また、これまで割合の高かったその他の科目やその他の項目が減少していることからSHDでは何ができるのか、どのような相談に対応しているのか、学生の認識が高まっていることがわかる。

(3) 学部別利用状況

図4に示したのはこれまでの学部別利用者数の年度比較データである。どの年度にも共通していえるのは理系学部の利用件数が多いということである。

学習支援において、一般的に文系科目の支援ニーズは低いとされている。SHDにおいても、同様な傾向があると言える。

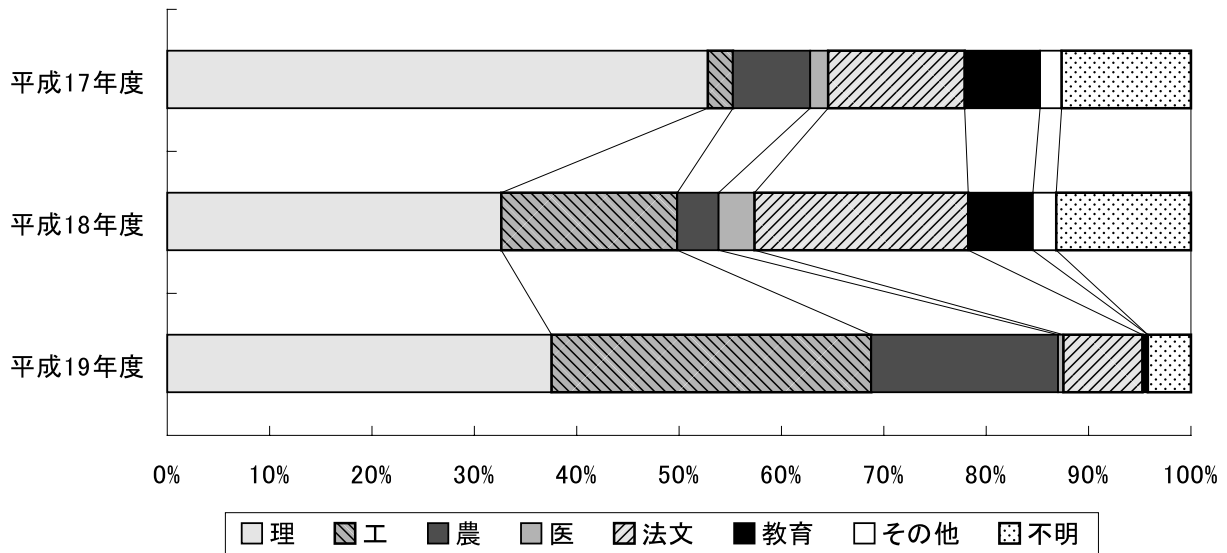


図4 学部別利用者割合年度比較

(4) 学年別利用件数

表1には学年別利用件数を示した。1回生の来談が多い。しかしながら、昨年度、1回生であった学生の今年度の来談が減少しているということも読み取れる。件数は延べ計算であることから、正確な数字は言えないが、一度来た学生が再度利用しようとしていない可能性がある。これは、学生が相談していたアドバイザーが修了と同時にSHDを辞めてしまい、そのため、来なくなったともいえるかもしれない。

SHDのアドバイザーは大学院生であることから、修了と同時に辞めてしまうことはやむを得ない。これに関しては、アドバイザー間の引き継ぎなどを徹底しなければならない。

(5) 課題

現在SHDが抱える課題にはアドバイザーの支援スキル（技術）面の課題、つまり利用者と接する時の対応に関する課題と業務運営上の課題がある。ア

ドバイザーの支援スキル（技術）面の課題としてはアドバイザーの質の向上が挙げられる。SHDでは利用者との会話が必然である。そして、会話の中でどのように相手の求める対応をするかが重要である。相談に来る学生は一人ひとり、多種多様な問題を抱えている。その学生に対して、同様な対応ではなく個々に適切な対応方法を迅速に見つけ出す能力が必要になってくる。そしてこの能力の獲得が課題だといえる。一方、業務運営上の課題としては広報活動のさらなる徹底、運営の効率化を図るための職務の分担、SHDと学生との継続的な関係作りが挙げられる。

アドバイザーの質の向上についてはOJT Off-JTを繰り返すことにより実践的かつ理論的にヘルピングの技術を身につけようとしている。実際の活動としては毎月一度研修を行い、ケース・スタディと教員による講義の聴講を行っている。この研修は、アドバイザーが自ら企画している。

業務運営上の課題である広報活動の徹底・充実については、現在行っている広報活動に加えて、イン

表1 回生別利用者数

	19年度入学	18年度入学	17年度入学	16年度入学	15年度入学	14年度入学	13年度入学
1回生	98	115	41				
2回生		14	26	89			
3回生			33	38	12		
4回生				0	19	38	
M1					1	2	14
M2						0	8

ターネットの Web ページ(ホームページ)など Web 上ででの広報が出来るように充実させなければならない。

職務の分担については平成18年度後期より、実施している。SHDでは月一度の研修とは別に、毎週一度ミーティングを行っている。しかしながらそれぞれの予定が合わず、全員が集まるのが困難であった。そのため、議事の進行が遅く、具体的な行動に移るまでに時間がかかるという問題があった。その問題解決のため、職務の分担を行うことに決定した。アドバイザーを総務、経理、広報にそれぞれ配置し、各セクションで話し合いをして、ある程度具体的な内容になったところで月一度の研修の場で議題として取り上げるシステムの構築を行った。このことによって、議事のスムーズな進行とアドバイザー個人の意識や役割をより明確にできるというメリットがある。今後、このシステムをより強化し効率的な運営を徹底する必要がある。

SHDと学生の継続的な関係作りに関して、先の来談者数のデータにおいても記述しているが、アドバイザーが大学院生であるため毎年アドバイザーの顔ぶれが変化する。これに伴ってこれまで頻繁にSHDに来ていた学生が来なくなるというケースがある。これに対応するためにアドバイザー間での密な連絡と、担当科目を同じにしているアドバイザーを同じ勤務時間にすることが必要である。相談に来る学生にとって常に気心の知れたアドバイザーがいるという環境作りがSHDと学生とのより良い関係作りに繋がると考えられる。

学生への効果

学習支援の効果は学習における躓きに対処することだけに留まらない。その効果は瞬間的なものと、サポートを継続できたことによる二次的な効果の二つがあると考えられる。瞬間的なものは、ある問題が分からない学生にその解き方をアドバイスすることであり、二次的なものは学習への内発的動機に訴えかけることである。実際に、SHDに来た学生はその後も何度か来る可能性が高く、長期的に関わっていく中で以下のような変化が現れた。

○生活が崩れ基礎力が身につけていない学生が定期的に通うようになり、継続的に勉強するようになった。

- アドバイザーの目を見て話せなかった学生が、目を見て話せるようになった。
 - 「恥ずかしくて人にきけない」(あまりにも基礎的なことがわかっていなかった)という学生が教員のところに質問に行けるようになった。
 - 「ここに来た人同士で知り合える。」今まで一人で勉強していた学生が勉強仲間を作った。
- これらの変化は一度の関わりで現れるものではなく、長期的に関わった結果だと考えられる。

大学院生への効果

学習支援業務は学生の支援という目的と同時に大学院生のスキルアップにつながっている。それは、来談者と接することによって養われるスキルと、SHDを運営することで養われるそれとがある。

来談者である学生からの質問はアドバイザーの担当教科に関する質問であることが多い。しかし、その質問に対してアドバイザーが必ずしも毎回答えられるとは限らない。つまり、大学の学部1、2回生の時に履修した専門基礎科目についての知識を忘れていくということである。来談者と関わる中で自分の基礎知識の確認をすることが出来、さらに自分に不足しているものについては、教えるために必要であるということから、再学習する。そのような自己反省のプロセスが日常的に起こっているといえる。

また、来談者と会話をする際には受容的・共感的姿勢で臨みたいものである。相手の立場に立ち、理解することはソーシャル・スキルとして今後の人生に大いに役立つものだと考えられる。

SHDの運営は基本的にはアドバイザーである、大学院生が行っている。集客性をあげるために広報活動を工夫したり、学生のニーズの調査をしたりすることで、マーケティングに関するスキルも養われている。

おわりに

今後、学生の求めるもの、ニーズを的確に把握するとともに、学生とアドバイザー個人・学生とSHDとの関係をより良好なものにするように努力しなければならない。

課題はあるものの、SHDの取り組みは大学院生の力を用いるという新しい取り組みである。教員で

は気づけない学生の躓きを敏感に察する能力に優れ、同じ経験をした先輩として、的確なアドバイスができる。また、学生の支援をすると同時にアドバイザーである大学院生にとっても、社会人になる際に非常に貴重な体験になると考えられる。

SHD 業務日誌

担当者 氏名 : _____ 勤務時間 : ~ : _____
 氏名 : _____ 勤務時間 : ~ : _____

時間帯	業務内容			担当
	時間	学部・学科・回生 (性別)	科目/講義名:内容	
第4時限 14:40 ~ 16:10	: ~ :	▪ ▪ 回生()	:	
	: ~ :	▪ ▪ 回生()	:	
	: ~ :	▪ ▪ 回生()	:	
	: ~ :	▪ ▪ 回生()	:	
	: ~ :	▪ ▪ 回生()	:	
第5時限 16:20 ~ 17:50	: ~ :	▪ ▪ 回生()	:	
	: ~ :	▪ ▪ 回生()	:	
	: ~ :	▪ ▪ 回生()	:	
	: ~ :	▪ ▪ 回生()	:	
	: ~ :	▪ ▪ 回生()	:	
			来談者数	人

< 備考 >

巻末資料 B

SHD相談記録シート

<相談日時> 年 月 日 () : ~ :		<学部>	<学年>	<名前>	女 男
<相談内容 (概要)> 学習一般 ・ 英語 ・ 数学 ・ 化学 ・ 生物学 その他 (大学での学習について)				<担当者>	
<相談内容 (具体的に)>					
<相談に対する対応>					
<備考：大学や授業への要望・不満など>					
確認印					